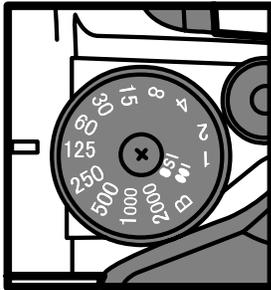
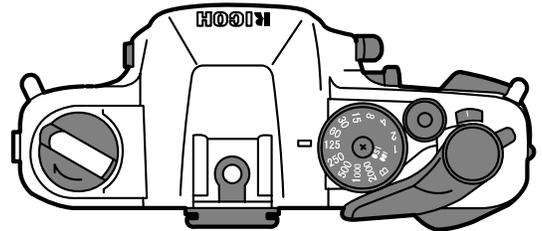
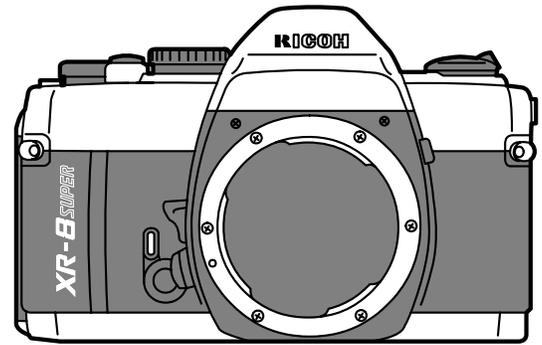


RICOH XR-8 SUPER

スペック

シャッター	1/2000~1秒・B (機械シャッター)
X接点	1/125秒
測光方式	中央部重点測光
撮影モード	マニュアル
サイズ	140.0×88.0×59.0mm
重量	435g
発売年	1994年
新品価格	29,800
中古相場	
備考	プレビュー (絞り込み) ボタン、多重露出レバー装備。 ファインダー視野率93% ファインダー倍率0.86倍



「電池が無くて動く」、「ペンタックスKマウントである」、「プラスチックボディで軽い」、そして「安い」。こういった特徴の持ち主であれば、それは天体撮影として最適だろう。我輩も学生の頃に何度か天体観測をしたことがあったが、空の澄み切った日というのは、耐え難く寒いと相場が決まっている。そんな時に金属ボディのカメラを触るのは、とても勇気がいることなのだ。また、真っ暗闇では、三脚に立てたカメラというのは倒しやすい。自分は大丈夫であっても、他にメンバーがいればそいつの不注意が全てを台無しにしてしまう。

そういった意味では、とっておきのカメラというのはなかなか使いづらいものがある。2万円台のカメラなら、壊れてもなんとか諦めがつく。もし10数万円のカメラを壊されたら、諸君なら笑っていられるだろうか？(変に笑い続けられるのも不気味だが)

また、天体写真には複数のカメラが必要になる時がある。1回の撮影で数十分もシャッターを開けておくことも珍しくなく、もし1台しかカメラが無ければ、その間は別の撮影ができなくなるのだ(星夜写真などを平行して撮りたい場合など)。

そういった時、軽量なカメラがあれば2台持って行くことができる。天体観測は、カメラの他にも荷物は沢山あるのだ。我輩が必要としていた時には、このカメラは存在しなかったのは残念だ。